

## 過年度事業の調査結果

資料2-3

施設名	補助年度	緑地面積(m <sup>2</sup> )	緑地の位置	樹木残存本数(上:整備、下:現状)			樹木残存率(%)			樹高(高木平均)	助成額(千円)
				高木	中木	低木等	高木	中木	低木等		
A 並木	S60,61, 63, H元	整備延長720m	並木	68	—	—	100	—	—	12m	14,010
B 病院	H6	2,164	接道部・敷地内	20	9	1,030	40	56	49	5.6m	5,000
C 病院	H13	1,350	敷地内並木	8	5	約500	95	94	75	6.5m	4,756
D 工場	H10	824	接道部	40	34	1,340	97	89	99	8.4m	20,000
E 幼稚園	H5	450	接道部	38	563	4,959	118	76	4	4.3m	3,000
F 病院	H14	446	屋上	37	約500	約4900	91	29		2.8m	7,381
G 老人ホーム	H11	445	接道部・屋上	11	17	1,405	105	75		5.2m	13,000
H 保育園	H5	490	園庭	13	13	約50	36	60	1	3.7m	3,950
I 老人ホーム	H14	800	接道部・屋上	11	10	94	95	76		4.9m	8,035
J 老人ホーム	H13	992	接道部・敷地内・屋上	4	6	1	74	32		4.3m	8,022

## 調査結果

## 1. 樹木の残存率について

高木と中木、中木と低木にまたがっている施設を除いて、80%以上の残存率があった施設は、高木では、5施設、内2施設については、整備当時より本数が増えており、施設管理者により植栽されている。中木は、2施設であったが、概ね半分程度の樹木が残存していた。低木は、1施設のみであった。

○全体的に残存率が低かった施設

- ・B病院：建物の北側の植栽は、日当たりが悪く、また、接道部から見える部分の樹木については良好に維持されていたが、接道部から見えない建物に接している植栽は管理が十分ではなかった。東側の植栽は、病院の改修に伴い撤去している。
- ・H保育園：周辺住宅に対する防音壁を設置した関係で、樹木が撤去されていた。一部は、他樹種の樹木が補植されていた。
- ・J老人ホーム：1階東側の緑地が、果樹園に再整備されており、それに伴って、一部の面積は、他の場所に移植されていた。

○低木の残存率が低かった施設

- ・E幼稚園：道路の拡幅工事のため、移植または撤去されていた。
- ・F病院：屋上部分は日常的な利用がなく、管理が十分でなかったと考えられる

## 2. 高木の樹高について

樹高は、施設により2.8~12mと様々であった。樹高が6mを超える高木は、並木、敷地内の並木、接道部に植えられたものであった。屋上緑化の高木は、2.8mであった。

## 3. 緑地利用・活用形態について

並木：歩行者への緑陰を提供しており、周辺景観の形成にも役立っている  
敷地内並木：施設利用者への緑陰を提供しており、周辺景観の形成にも役立っている  
接道部：歩行者への緑陰を提供し、周辺景観の形成にも役立っている。また、施設の遮蔽機能にも役立っている。  
屋上：施設利用者が、散歩や園芸作業等を行っている。施設利用者のイベントや地域住民との交流の場として、利用している。  
園庭：主に、園児のレクリエーション、学習として利用している。

## 分析と課題

- ① 高木の残存率は高かったが、低木になるにしたがって、残存率が低くなっており、高木の方が継続性があると考えられる。助成対象樹木の検討が必要である。
- ② 高木の樹高は、施設によって様々であるが、樹高が6mを超えるものは、並木や接道部に植栽されている。また、屋上では、土壌条件などの樹木の生育に制限があり、年数が経過しても樹高は低いままである。助成対象場所の検討が必要である。
- ③ 施設の敷地内や屋上では、施設関係者に利活用されている。並木や接道部では、広く府民に緑陰などを与えている。緑の目的に応じた助成対象場所の検討が必要である。
- ④ 日当たりによって、生育状況が悪くなっていたり、施設の建替え等により撤去されている。整備計画を十分確認したうえでの助成が必要である。
- ⑤ 並木や接道部をはじめ、多くの人の目にふれる場所での緑化は、よく管理されているが、人の目にふれない場所での緑化は、管理が十分でないケースが見られることから、助成対象場所の検討が必要である。